

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Aユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、明るく元気に入所者様に接しています。  
毎月の行事や節句、誕生会などその時々合ったレクリエーションを行い、ご家族様や地域の方々をお招きし交流を深めている。行事のときのお食事は、季節の食材を使いバイキング形式で楽しんで頂けるよう工夫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム白石館」は、バス停から徒歩で数分の静かな住宅地に立地している。建物内は清潔感のある明るい造りで、ユニットごとに家具類の配置を工夫しながら利用者が過ごしやすいような環境作りをしている。管理者は、法人研修や採用時研修を基に計画的に職員の育成に力を注ぎ、各ユニットリーダーと共に質の高いケアを実施している。全職員で理念を共有し、それぞれの利用者の残っている機能を把握して、その方の能力が可能な限り損なわれないように製作や調理、清掃など日々の生活活動を一緒に行いながら、一人ひとりが明るい笑顔で安心して過ごせるように尊厳のある生活を支援している。地域のお祭りやゴミ拾いに参加したり、事業所の夏祭りに地域住民を招待するなど積極的に地域交流にも取り組んでいる。行政との連携も法人本部が中心となり、日頃から情報交換して協力関係を築いている。冬季以外は積極的に散歩やドライブに出かけたり、職員手作りの紙芝居や演技、社交ダンスやかるた大会など利用者が楽しめるような行事を毎月計画して笑顔の絶えない温かな支援を行っている。介護計画も、日々のケアと照らし合わせながら変化を記録に残し、その人らしい生活ができるように適切な計画を作成している。職員の明るい笑顔と家庭的な優しい対応は、利用者や家族の安心感と信頼につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている	開設時に、地域や家族との結びつきと共に、明るく笑顔で尊厳のある生活を支援するという、管理者の思いを込めた事業所独自の理念を作成している。入職時研修で伝えたり、申し送りや毎日唱和することで全職員が理念を理解し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋外での行事には地域の方々にお声がけし、参加を呼び掛けたり、交流の機会が持てるよう散歩のときには挨拶し立ち話などしている。	町内のお祭りに利用者や家族と一緒に出かけたり、ゴミ拾いなどに参加している。七夕で訪れた子供たちに、利用者が菓子を渡して触れ合う機会もある。今後は子供たちとの交流が増やせるように、保育園への働きかけも検討したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くは無いが、相談に来られた方には介護サービスの利用について助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を実施しサービスの実施状況や取り組み、事故報告等を行い、その時々テーマを設定し話し合いサービス向上に努めている	全家族に会議内容を記載した案内を送付して、地震時の対応や事故対策、認知症などをテーマに活発に意見交換している。地域包括支援センター職員から、特殊詐欺や勉強会などの情報を得ている。議事録も全家族に送付している。	メインテーマを分かりやすく会議案内に記載し、参加できない家族の意見も事前に聞き取りながら会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導や管理者連絡会への参加、不明な点は積極的に相談している。	法人本部の担当者が毎月市役所の介護保険課を訪問し、情報交換しながら連携を深めている。管理者は、介護保険の更新申請や書類の手続きで区役所を訪問したり、保護課の担当者が来訪した時は本人の状況を伝えながら相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し理解を深めケアの実際で職員同士声を掛けあい取り組んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」に記載したマニュアルを整備し、入職時研修や法人研修で学んでいる。身体拘束適正化委員会を法人合同で開催し、各事業所で内容を共有している。不適切な言葉かけについて研修を実施し、行動を抑制するような声かけをしないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて金集会を開き日常のケアにおいての言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については社内研修を行っている。実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいらっしゃることで良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。	家族の来訪時に利用者の様子を話し、具体的な対応などについても伝えている。家族からの些細な意見も真摯に受け止め、「苦情記録」に記載して職員間で情報を共有している。毎月、本人の様子を個別に記入して、広報紙と一緒に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。	全体会議やユニット会議に参加できない職員の意見や提案を事前に聞き取り、会議で話し合っている。ユニットリーダーが中心になり、職員の意見や提案を日々のケアに反映させている。本部担当者と年1回個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便りには施設での行事や日常の様子等を紹介している。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。	趣味の仲間や宗教関係の知人が来訪したり、仕事関係の方が訪ねて来る利用者もいる。職員と一緒に近くのコンビニエンスストアに行ったり、家族とブティックやデパートに買い物に出かける方もいる。自宅に帰ったり、結婚式に出席することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋げている。	「心身の情報シート」を作成して本人の思いや意向を把握し、変化があれば追記している。今後も趣味や嗜好などの情報を更に具体的に記入して、介護計画に反映させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスや介護計画終了月には、モニタリングを行い、現状を把握したうえで必要なサービスを極め介護計画を作成している。また、ご本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画に反映させている。	利用者担当職員の「ケアカンファレンス記録」を基に全職員で検討し、6か月ごとに介護計画を作成している。毎日介護計画の「サービス内容」に沿って実施状況をチェックし、変化があれば日々の記録に記入して介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有し、変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。外食やいちご狩りなど屋外で楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。	協力医療機関の受診は事業所に対応している。家族の支援で、専門医のかかりつけ医を継続している方もいる。往診と受診は「診療受診記録」に個別に記録している。往診結果は、変化があればすぐに電話などで家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。	利用開始時に、指針に沿って重度化した場合の事業所としての対応について家族に詳しく説明している。体調変化に応じて主治医の判断の下に家族と方針を検討しているが、事業所での対応が難しい場合は入院となることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。災害時の備蓄品等も整備している。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得ている。各種災害のマニュアルを整備し、職員の救急救命訓練も計画的に進めている。近隣住民の参加が難しいため、同法人事業所と連携しての訓練を考えている。	地震時のケア別の個別対応について職員間で検討したいと考えているので、話し合った内容を記録に残してマニュアルに綴るよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。接遇マナーの基本を意識している。	採用時研修で利用者の人格を尊重した対応や法人研修で接遇を学び意識して利用者に接している。申し送り時に名前をイニシャルで伝えたり、他者から離れた場所で個人的なことを聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をして片付けも手伝って頂いています。	献立を止めて誕生会には赤飯など好みの料理でお祝いし、行事の際に月1~2回のバイキングを行っている。出前を取り寄せたり、好きな寿司ネタを選んで外食している。利用者も参加して、ホットプレートで焼き肉や畑の収穫物で芋餅を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。	座位が保てる場合は可能な限りトイレでの排泄を支援している。自力で排泄ができる方にはそれとなく見守り、介助の時も排泄行為が維持できるように動作の声かけで自信につなげている。下着やパッド類は本人と相談しながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。	いつでも入浴ができる態勢で、毎回湯を交換しながら希望に沿って入浴を支援している。身体的な状態から1階ユニットの機械浴を使用している。好きなシャンプーや入浴剤を使用し、全員が湯船に浸かり職員と会話をしながら気持ちよく入っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持って(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。	近隣の住宅の庭に咲く花を見て車椅子利用者も周辺を散歩したり、事業所の畑づくりや収穫で外気に触れている。近くの公園に桜の花を見に行ったり、手作りの弁当持参で道の駅に出かけている。家族と外食や買い物、地域の夏祭りなどで外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。	1階は事務室を中心に左側に6名、右側に9名の2ユニットと、2階には9名の1ユニットになっており、各居間の窓から光が射して明るく、陽射しが強い時はレースのカーテンを引いて配慮している。居間や廊下、玄関ホールに紙細工などで制作した桜の作品が飾られていて季節感も工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。	居室の入り口は、一緒に制作した本人の写真入りの装飾で自室が分かるように工夫されている。室内に造り付けのクローゼットが備えてあり、タンス、テーブル、仏壇、小物入れなどが持ち込まれている。時計、家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Bユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、明るく元気に入所者様に接しています。  
毎月の行事や節句、誕生会などその時々合ったレクリエーションを行い、ご家族様や地域の方々をお招きし交流を深めている。行事のときのお食事は、季節の食材を使いバイキング形式で楽しんで頂けるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋外での行事には地域の方々にお声がけし、参加を呼び掛けたり、交流の機会が持てるよう散歩のときには挨拶し立ち話などしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くは無いが、相談に来られた方には介護サービスの利用について助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を実施しサービスの実施状況や取り組み、事故報告等を行い、その時々テーマを設定し話し合いサービス向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導や管理者連絡会への参加、不明な点は積極的に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し理解を深めケアの実際で職員同士声を掛けあい取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて金集会を開き日常のケアにおける言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については社内研修を行っている。実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいらっしゃるので良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便りには施設での行事や日常の様子等を紹介している。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋げている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスや介護計画終了月には、モニタリングを行い、現状を把握したうえで必要なサービスを極め介護計画を作成している。また、ご本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画に反映させている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有し、変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。外食やいちご狩りなど屋外で楽しめるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。災害時の備蓄品等も整備している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。接遇マナーの基本を意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりののペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持って(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛ける。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Cユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、明るく元気に入所者様に接しています。  
毎月の行事や節句、誕生会などその時々合ったレクリエーションを行い、ご家族様や地域の方々をお招きし交流を深めている。行事のときのお食事は、季節の食材を使いバイキング形式で楽しんで頂けるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋外での行事には地域の方々にお声がけし、参加を呼び掛けたり、交流の機会が持てるよう散歩のときには挨拶し立ち話などしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くは無いが、相談に来られた方には介護サービスの利用について助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を実施しサービスの実施状況や取り組み、事故報告等を行い、その時々テーマを設定し話し合いサービス向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導や管理者連絡会への参加、不明な点は積極的に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し理解を深めケアの実際で職員同士声を掛けあい取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて金集会を開き日常のケアにおける言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については社内研修を行っている。実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいらっしゃることで良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便りには施設での行事や日常の様子等を紹介している。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談があれば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスや介護計画終了月には、モニタリングを行い、現状を把握したうえで必要なサービスを極め介護計画を作成している。また、ご本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有し、変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。外食やいちご狩りなど屋外で楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。災害時の備蓄品等も整備している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。接遇マナーの基本を意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりののペースを大切に体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持って(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアーや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファーやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム白石館

作成日：平成 31年 3月 27日

市町村受理日：平成 31年 3月 29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営報告や事故報告を行いその時々テーマを設定して話し合っているが、会議案内には記載していない為、会議に参加できなければテーマに対して意見が言えない。	メインテーマをわかりやすく会議案内に記載し、参加できない家族の意見も事前に聞き取り、会議に活かす。	運営推進会議の1年間のテーマを決め、事前に面会時などにご意見をお聞きし、運営推進会議に出席できないご家族様の意見も運営推進会議に反映させる。	12ヵ月
2	35	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得ているが、個別の避難方法が話し合われていない。	地震時のケア別の個別対応について職員間で検討し話し合った内容を記録に残し、マニュアルと共に保管する。	地震時に限らず、災害時の車椅子や歩行の不安定な入居者様の安全な避難方法を職員間で話し合い、話し合った記録をマニュアルと共に保管し、いつでも確認できるようにする。	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。